HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会学研究法講義案
Author(s)	鈴木，栄太郎
Issue Date	1959
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77298
Type	manuscript
File Information	K023_0134.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

社會學研究法
東洋大學大學院
社會學演習
講義案
昭和二十四年度

TRADE MARK

A
4

Superior Note Book

社會學研究法

東洋大學大學院

社會學演習

講義案

昭和二十四年度

TOKYO B.B.B.

授業科目 社会学概説
講義題目 社会学研究法
講義概要 一、社会学研究法概説
二、社会学研究の修習

社会的研究とは何か

実験的研究とは社会科学的実験の上に試みられる研究をいう。社会科学的実験とは同一状況を設定するか出来る場合、又反復し得る場合。現象自体を変化させるか書物か統計か。

然し社会科学的実験の対象となるものは自然科学のそれとは異なり、あの如く同一の條件のもとに繰返しくりかえすことは出来ない。社会科学的実験の対象はあくまでその環境において、環境を自由にとりかえたり取りのぞいたりすることは出来ない。故に社会科学において真科学なるかけ離れた観察は不精密な（未成熟に）

社会学研究法概説

社会研究の目的

日本の社会学は明治中期の時代をもつて建設的な実際的研究にのりだす

（常時研究の目的をもつて研究のきる）

二、社会学の基礎的研究法は人間社会の基本的な構造と発展に関する研究である。

而して五つの社会的概念がある。

三、実際的研究とは何か

基本的構造の究明のためには現象のあらゆる姿を正しく把握する必要がある。人のあらゆる、この生活には法律、教育、道徳、美の全部からみなければならない。絶対客観的判断がそこにはない、その為には現在の立場での社会が最適。現在以外には絶対なる判断は絶対不可能。

四、研究操作と現実。北海道のために研究も
それによって方位づけるのは科学的研究を正しくは
める所以ではない。走って行く汽車の中で、走って居る
方向に走ってるのを自覚するのと同様なもの。
北海道は人として生の実践を促進し得る様な
はいくらでも外の世界だ。
汽車を無にいかす様なすはせぬかよい。
指導に屈せず指導に媚びず正しく強く
真理探究者の道を歩こう

在りのままの教育
その為に地位と足下のみず

四、都市学校の現況に於て求へた研究
活動、特殊な学校の現況に於て求へた
研究性格

五、実証的研究学会の宿命
「日本国民学校」に対する有識者の
批判の批判
「都市学校」に対する批判者
の批判に答へる。

六、常に研究題目の大なるものを
もつてゆくがよい。

七、諸君の出生地 高等学校名 地名市町村名 同心研究題目
を知りたい。
研究の場を作り
出来れば仏教的心指導したい。

大学院は両学部、博士課程とする
諸君の今の問題と私の今の問題

1、諸君の家族的研究室は人間的な生活の基本的な構造と動きに関する組織的研究である。特に本学では三矢を明らかにする必要がある。

2 その目的のためにはあらゆる生活の化物の解剖が必要である。

3、あらゆる生活の化物の生活のためには生活のあゆむ側面を何度繰り返して綜合的に解剖する必要がある。

4 そのためには死花の外に問題はない。

5 又学問でしく死の意味を解明する。自分の生活をしてみる方法が前提である。意味は問題の世界。日本で社会研究は最初。

6 みんなのための研究。家族の生活の基本的な構造は確解する。家族、村落、都市、国民社会の基本的な構造を明解する。

7 名、伝記地、関心研究問題を記せ

研究の根本論

1、東京巨大都市圏の研究

2、国民社会の研究

3、余の両研究に対する批判の批判

都市世帯の夫婦家族化と家族本位制より職場本位制社会への移行

職場社会と家族社会の比較

職場社会の三体制と家族生活との比較

職域調査における組織の三分類と職域調査における三類の調査

日本社会研究に利用し得る概念（用具として）

第一、家族に関するもの

日本家族の三類型に関する概念は

日本家族の上に構成されたかと人間生活の周期と世代周期との秩序

第二、村落に関するもの

自然村と行政村の区分

自然村と三種の社会地図

自然村の精神と時間的変化

十種の農村社会集団

第三、都市に関するもの

○社会図位図を四種に分類する根拠

○正常人口と正常生活の原理

正常と異常の区分

人生四段階の法

社会図位を異と偽と異なの三種に分ける法

三種の生活地区区分根拠

都市をかなめとする五種の公園
要及作用関係
都市に集まる機関の九種

本論第一

第一、家族に関する史的

日本家族を三類型に区分する根據

直系家族における世代的発展における周期性

夫婦家族の場合

同族家族の場合

家族型としての理想のものを考へる時

考慮すべき点

一、婦の婚入の時の家族構成

二、人が老いて死する時の家族構成（男の保育妻の場合）

家族に存する周期性

文上
5.19.

或いは弘法寺取巻き

職場

一、職務遂行のための組織　仏人の能力の発揮

二、情義的協力のための組織　仏人的接客

三、階級的対立闘争のための組織　仏人主義的合理性

縁故同伴採用

家族本位制の残滓

家族の不幸への接助

縁故主の地位

職場の

都市貧民

門、177

職場本位

仏人の能力に応じての地位

仏人の能力に応じての配置、移動

職場の地位に応じての勤務規定

職場の地位に応じての賃銀

職場かけの地位と支配同伴

人を金銭用具として考へ方

日本の資本制的集団としての人間の相互利用の方法

相互利用

仏人男性

力治者

勤め人者

強者

弱者

金の世の中

政治主義

英雄崇拝

第二職場本位論

夫婦家族への批判と職場本位論

職域論の分析

職域地域的五分制

一職域における三組織の調和

職域論と家族論

本位

家族本位制

一、独立家族制　仏人を貴族とする

二、家族生活を理想的家族生活の型とする

三、男尊女卑の思想

四、家族を社会生活の単位とする　増加しない家族

五、家の地位を仏人平等に考へる

六、結婚式の簡単なる儀式

七、家族道徳保護助長の制度

八、絶家を防止する為の養子制度

九、家の安定の発展に奉仕するための人間の修養

十、地区集団は世帯単位家族単位

増加した農の解放する家族

自主的生活による保護のあった古い家族

人と人とは近くと
遠くは多差的に
人が機関へは
下から上へ
機関が機関
又は人へは上から
下へ

大秋の人の部落外の人との政治的対抗

本論文は定に利用し得る材料を
政治団体四分類理論
一、人が人に対する団体
二、人が機関に対する団体
三、機関が人に対する団体
四、機関が機関に対する団体
五、市町村間の調整

一般に人間社会団体の分類
形式に用いて法的性を見出すのに
役立つものと思はれる。

五月二十六日

都市と三税の生活地区

村落の諸特徴と都市の社会構造

自然村と三税の生活地区

一、自然村の概念

a. 名称、自然村（アラタカ）と行政村

b. 自然村と行政村　自然と文化

自然　都市と行政都市　自然区域と行政区域（行政区域と経済区域）

自然人口と行政人口（戸籍）

自然村における行政村の跟跡、今日の日本の

自然村と江戸時代の村

地域の境界の異移動のは強体丈である。

二、地域的生活は統一の中の特徴を経、一体として村落と都市の両面の要素を特徴は（都市移行とする）あり。知った。

三、集団生活としての村落を初に知り

仕事的社会的法内容による相互制約関係を知り

知る社会発展の特徴を最初に認める。

不動三郎 社会学的分類

村落の分類
都市の分類

一、地理的見地（人と人との関係の相模性、特殊性）
人と機関の関係と人と人との関係

一、地理的分類（集落形態、集落立地、支配圏、生活圏）

一、歴史的分類（時代的区分、発生段階的区分）

一、人口法的（人口量、人口質）

村落の分類
サンダーソンの村落発展段階 五分類
小野武夫氏の六類

集村、散村（集落形態）
集落立地による分類
農山漁村、平地、郊外村
水田村、畑作村

地理的
経済学的
政治学的

空間的の村 都市化の程度による三分類
余の
都市化の程度による分

東北の村と九州の村の別

都市化の程度による別

満中村　組合村　農場村

都市の分類

1. 歴史的分類　城下町　社寺町　商業町

（封建時代のもの発達しつつあるもの
封建時代のものが衰微しつつあるもの
明治以後発生したもの）

2. 地理的　集落形態による―農村部と放射線
位置（市民の特殊連絡所の集落の
の位置による分類

（星雲形　星間形　ヒトデ形　紡錘式
不整型　剣形　木内氏）

3. 人口密度的

（人口絶対数別　商業都市　工業都市　行政都市
職能別　官庁都市　商業　工業　娯楽

人口絶対数

業種別人口
人口絶対数

消費都市、生産都市

人口規模による
大中小田舎の

人口種類による
大都市 官公吏人口知識人等人口多く、
中都市 商業人口比較的多い。
小都市 商業、交通業公務員多く、
農業の割合が高い。
純小都市 大多数は農業都市
手工業

地理学的の
支配圏の大小による別、十種
テリトリーの大きさによる相互の距離
の大小の別。平均 10km 以上 50km 以上

石川栄耀氏の生活圏の考え
次の法則を見る
影響半径 150km
消費の規模 子供中心 月末中心
周末中心 日常中心
都市機関 大学 中学 小学
右は行政機関と人口との関係の
規模別分類、機関は人口ある。
機関の関係圏

余の都市分類論

諸外地模倣五段階分類
機関の開発圏の規模による分類

1、前都市的存在　西宮　大秋田
2、最小都市　恩和内、美濃(田代)
3、小都市　桑原、名寄、旭川、弘前
4、中都市　札幌　青森
5、大都市　東京　東京

余の分類は特殊では諸関係の開発程度によって、都市性では関係圏の大小によって分類した。何れも現今の状況を分析する。

六、二三

農村
構造の比較構造と都市の比較構造

亞洲人口研究

市の社会調査に不要な項目

夏休は最初の清書でリポートの話

往来金の演習は成たゝし北海道夏休みなは
学生に報告せしめるようなる
金の清書するだけでは学習の学問のフレー
シックになる。
十月十五日にリポート提出

廣田先生の科は各校のそれぞれの職場に直接関係しているが、北海道の科は職場に直接関係していないから、とんでもない。北海道の科は学生を科学的に研究したり教えたりする職場に直接関係しているが、北海道の科学としては研究したり教えたりする事を職務とし、職場は別に大学や研究所の職場の教育職員は研究員の職場であるが、そこでは北海道の科学を科学的に研究する事を職務とし職場は大学や研究所の職場であります。

後藤の清書の為に席をあけて貰った。北海道の科の学生が職場に出て行くのは当然の事であります。

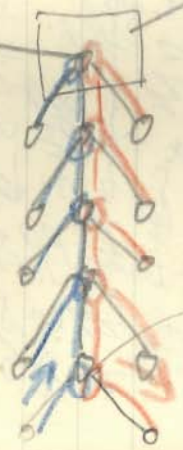
㊥ 都市が都市たる所以の基本的なるものにおける近代化の諸相の調査

□民文化第一化の現象としての社会的流動

社会的力は集積と共に増大し集積した力の虚現象は別物の力をもつ。社会的力には財力、政治力、兵力、知識力等があり、其力さまざまある。

中三型（中都市型）

中二型（首都型）



味噌醤油

酸化作用

創造的機能

資源資料

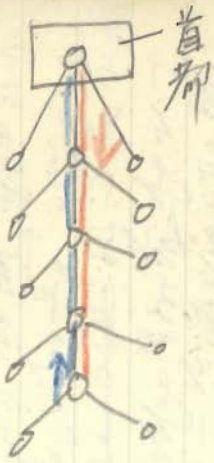
資・労技

資・労技の合体

文化的化学場としての都市

中一型（地方都市型）

商業的



社会的流れの通路としての都市（集中と発散）

都市の社会調査に不可欠の項目 ㊥

流動

一、社会的交流の場としての都市

どんなものとどんなものへ、どんなものとどんなものへ

交流する

物（運輸）生活資材、生産資材）

交通

人（生活活動、生産活動）

心（生活の場、生産の場）

全車輌（傍車輌）

交通化の施設

首都は流れの通路ではない。流れて来たものを変化させて送り出すところ。吸い上げる場所、そこから卸し下す場所。

この作用は必要ではあるが地方都市にもある。故に都市における都市性には二つの特性がある。上図のごとく

一つは通過点として一つは文化的化学場としてである。

創造性の民主的発展をいう。吾々日本の私の子の「天体」

学問の何ぞや。財産家の何ぞや。ノレンの力（技術の修得）

信仰、生産用具の信仰、保護人、当来の成長の不時の

底力、長く見れば大きな保険線、搾取、私の抗

大

生産者との連帯取引と民主的化

△統治力（支配力、

首都に集まる力の色々

一、政治力（指導力、武力、

一、金力（資本、信用、

一、教化力（吸力、威力、教育力、宣教力）（魔力

一、宣伝力（マスコミ

一、知力（物の力、経験力、

一、技術力

一、管理力（経営、支配、統制、賞罰、企画

一、労働力

一、信仰の威力（神格化人、民衆信仰対象人

一、兵力（腕力、暴力、殺害力）

一、ボス的支配力

一、奸悪行為能力

一、妖魔力

一、忍行為力

一、特殊者の威信

一、芸能力

一、創作力

一、説教力

金力

首都に於ける酸化作用の内容如何

資本家と政治家の合力

芸術家と資本家の合力

政治家と宗教家との合力

政治家と宗教家の合力

宗教と政治家の合作

サギ師と資本家

野

世に遺賢なしの言

遺賢とは世の埋もれさる偉人、埋かさる優秀家

賢者世に出ず

以上十月十四日書

第北大学生会講演

機関調査と特に金融機関と都市

(一)

1、第一次産業従事者の多い人口（機能的都市）

2、工業従事者の（業種別）比較的細数調査

3、商業従事者の構成調査

a、自営業、業種別細数調査

b、経営人口と自営業者数との比較

c、世帯と職場との隔離、その調査

d、最も著しく現はれた生業

（商業的）

（調査）

（商業的）

（人口密度）

（商業的）

（商業的）

（商業的

地域住民組織の結成する情況
配置する組織

(五)
特殊団体、団体
労働組合の職域組織と
上部組織への加入する情況
商店街組合の組織と活動
市政と政党との関係
市政と国家機関との関係

三、六
生活問題
都市住宅問題、都市利用問題、マーケット
普及する情況、デパート
市民生活費の年中行事
給与生活者

四、七、都市的設備
1、消防組織　人的物的組織
上下水道
2、マスコミする情況
3、病院及病床
塵芥屎尿處理する情況
4、市歳出決算報告
1″道路事情　1″都市物流事情

4 VIII

4 IV

第二号　第一号

八、行政都市と農村形態（立地條件に於ける都市発展の特徴）

（人口百人一戸として同上に明示
従業員五百人以上を業体数を一戸として地図上に明示）

第一号　第四号

九、明治初年以降の行政組織の沿革と人口移動の原因別変化概要

（土佐清水市市制要件成績要覧 P.433-434
この要件の吟味は表であるが、私の氏調査表は日本都市の都市活力調査表である。）

十、機関に関する調査文献目録

（簡略に表を作る。これは小地域の都市の性格の吟味に用いて有効である。）

民主化（近代化）の日本における具体的形態

家本位社会より職場本位社会へ
（民主化の仕方を社会化自由主義化全体主義化の日本における場合）

一、家本位の制

1. 租税公課に関する信仰と慣行（考え）
2. 家族生活を規定する生活の類型とする思考
3. 男尊女卑の思考
4. 家族を社会生活の単位とする慣習及制度
5. 家の社会的地位を個人評価に考慮する慣行
6. 婚式の習慣及儀礼に関する
7. 家族連帯保障的な制度及法律
8. 絶家を防止するための慣習及法律
（九）家の名跡の発展に奉仕するとしての人（男子）のみが評価される結婚のあり方（僧侶）
（十）離婚した女の地位（家における妻の地位はどうなるか）
（婚姻式は第三者の立会をつくる）
（離婚した二人は社会的二位の取扱）
（貞淑なる妻は社会的二位の取扱）
（十一）支那のテン足と日本夫人の生活隔外
十二、家が社会活動の単位

社会は職場をどう見て居るか

1、学校を出れば人は皆元い職場につくすきものと決し化じて居る社会

2、大きな職場程安定な有利な生活を保障すると思はれて居る

3、人の社会的地位は職場の社会的地位によって評価される場合が多い。

4、生活は仕人男位で所得し仕人男位で

5、大名が割居して居た封建時代の名残

6、大切な職場が天下を割居し職場に居しない者は人でない様な時代

二 職場本位社会制

職場の内の生活

1、仕人の能力に応じての採用のみ

2、実力に応じての地位

3、職場の業務本位に決定される職員の配置

4、地位に応じての勤務規定給与組織

5、遠慮の欠如勤務評定

6、勤務に応じた部課と業務

7、職場の地位の上下と支配関係

8、人を生産員として考へる考へ方

9、人を生活用具として利用し合ふ交易の関係

10、家の気制限蒐集者としての人間の相互利用の社会と見る社会

職場家族

一、婚した女の内る家族の位置はなくとも職場とアパートが彼女のために家をもうけて居る。

二、離婚しやすい社会

三、新夫婦との別居を希望する新しい女性

職場本位制社会の特性要約

一、仕人男位社会

二、相互利用社会

三、力次第の社会

四、勤め次第の社会

（仕人文化）

（自由文化）

現代との別れを宣言する近代の女性

五、個人の勝ちの時代
（物質主義）
六、金の世の中
七、現金主義
（合理主義、機械化主義）
八、共同場勝負
九、事務的な者本位の時代
十、幸福が集中する社会
（階級分裂社会）
十一、不幸も集中する社会
十二、合理化の過程

過渡的現象

1、縁故者の地位　重役、社長の世襲
2、縁故関係採用
3、職員家族の不幸への職場の援助

中産階級が北うえの大学を就職難を同じくしてよって現出、
家族主義の我の意志と家族主義の子の意志
とのぶつかり合が早く職場本位制のドライなものとなるか見物である。
（は合理化を嫌がるものであるから）

日本の特色にある私分子負担の強靭な存在が
庇護　資本、財力、
信用の保證

人の話や
技術の指導

支配
仁義は物事
指導
命令
金の力と暴力の力

以上十月廿八日講演
テープレコーダーにとる

農村の社会構造と都市の社会構造

一、農村を見る眼―人間関係として
　同伴者関係の発見―家族関係の背後、職場が家族関係
二、都市を見る眼―人間関係として
　世帯と職場の発見―個人間の関係、職場が個人関係

三、農村でも都市でも人間生活部を生産活動と
　その他の生活活動の二類に分けて考へる。

四、農村の生産活動は家族関係
　都市の生産活動は個人又は個人の協力体
　（家族関係の外に）
　個人の協力体としての職場は（主として）近代の発生
　（封建時代の芽生えの家中（はも同類と云へる）
　大工業体を二階級を内含する場としてみる。
　いわゆる二つの協力体と見る見方（事実に既した見方）
　農村家族を貢納関係又は生産力としてみる見方
　見なければいけない人間家族として見る見方

五、世帯と職場の個人的の利害関係によって都市の段階
　を知ることが出来る。

都市に出た場合の職業的生産がそこに新しい
生産の場を創造された。その職業的生産は
農村的協働をもつものである。生産の協力が有
効であるためを経営に新へた。それ故の新しい都市
的生産は家族と世帯と職場の不一致を便利と
するものであった。

家族と世帯の不一致の利益
世帯と職場の不一致の利益

生産活動と消費生活
自給と協力

生産活動の発生と交易の発生
交易の発生と金融の発生
協力の累積

2、世帯と職域

1、地域の上（家族と地域の上と云ってもよい）

人間関係に関する一切の生活関係の基礎を成して居れば
に於ける人と人との社会関係の基を一つ一つ調査して
見ると其の条は三つの地域の上に根強くしへ居る
し、都市に於ける社会関係へ条は職場と
世帯の上に根強くしへ居る。
人間関係の社会的活動の実際は確固たるものに
社会学的に確信を持つて発見して居るのは
私の所謂社会的地位の結合に同族結合を
要な紐帯急むと云ふ事、或ばれ掛ける
最終的に於いてはかくのみ同族結合
は其の外に異例又は考へられない有様である。

と家族の上と

六、以上の如く家族の社会集団は地域的、生業
活動に於いても生活活動に於いても個人差
又は家族差が余り有り無しかと何るも
地域別に結束して居る。故に集団は果然
都市に於ける生業活動に於いても生活活動に於ける個人差又は家族差が多いので
結束する事が出来ない。
農村に於ける生業活動は職
場に於いて異り、生活活動は家族差（教育の差
世帯の差）に於いて一律に地域的に結束す
る事は困難である。
都市に於ける生業活動の面には世帯
所有する職場
によって根本的に
世帯と職場に家族が都市住
民の生活を支配して居る基本的の因
子である。
これ等の三つの集団は之は都市生活の
正常な生活をその内で営なましめつゝある基本的
な集団である。都市住民は之は生活の余
暇に生活拡充のための活動の為に作つた正常集
団がある。生活活動集団と私が云つた所
以である。
これ等の集団は特に日本では
特色のある重要な集団であるから特に一類に

社会構造に社会的には集団や社会的諸関係の統一とみなすべきであるが、実際には集団関係は統一は地域性の基盤の上に存しているが、都市化のためその集団的統一は生産活動の場と生活活動の場の二つの上に成れている。生産活動の場は職場であり、生活活動の場は世帯である。現代にこの二つが未分化の状態にあるから上に職場的機能も未分化の状態にあるから地域による区分でもあり、職場毎に又世帯毎に活動内容が異っている。

この上に成り立っている。

七、実際の社会構造は集団関係の様式に示されているように前述のごとくである。私が自然と呼ぶ村落とは私が集団関係を三類に分けたものの中の中位の集団関係に属する。第一次的地区から最小地域の部分であり、第二次的地区から最大の地域の集団関係である。第三次的地区の複合聚合である。

日本農村における社会活動は二種類の社会地区の何れかの上に成り立つ。社会地区とは村落とか地区から成り立つ。三つの社会地区が村落生活における活動の基盤となるものである。

農村では生活の一様式が個人間にも家族間にも等質的に存しているから社会活動の関係は地域的区劃によって決定される。

しかし等質的に農村生活が多くの点で共通性を持つ社会の異なった質同士によって場合もあり同類の取扱もある。集団と社会的同位も同類の同に形成されている。

生産活動においては職場毎に生活活動においては世帯毎にその活動を異にしている。故にこの二つの者を別々に生活を直接に支配している場合のうち主要なるものは職場の手段的なものと見てよいであろう。都市においてはこの他の要因は多様多様の余地的な要因である。

そして社会構造とは何か要するに社会とは何かにおける場合としては之の形態は人口密度、個人及び家族及び階層間における生活活動の個性の拡大にもとづくものと思はれる。農村においては社会構造は伝統的地域性によって規定されつゝあり者としては生業の性質によって規定される。職場

農村の社会構造は原始社会同の部分的生活単位の線の大きさに示される比較的独立地域の上に社会過程が発達しているとすべきである。

首都論について

一、金の移動と東京（生活費と都市構造論）

一、首都論は政治的文化と経済的文化としてとらえる。私の都市機能論は同じ

一、交流政策の二つの柱（商業型、工業型）

一、東京は新文化創造作業場

一、新文化創造作業場における工作過程

の中の三つの子供

1. 「日本」の決定

2. 各組織作の中心と配

3. マスコミ

4. 大綱のからみ合い

中綱のからみ合い

一、日本の統治文化と首都

一、ブラブラリヤ

一、多元的自治体と首都の機能分散

（以上一月二十日）

徳川の政権の研究の同仁集中点
徳川の研究の方向と近代の一年間
の回顧
同志の任務 [illegible]

(二月十七日)

都市周辺村落における都市化過程の
実證的研究

渋谷君の

都市性及び都市化に関する周到な
理解の上に進められようとしてゐるこの都市化に関する
実證的研究は
都市社会学に対して大きな貢献が
期待されると共に日本農村の指導者等
に対しても示唆多き研究となる
様と思はれる。

社會文化の發達に関する研究

一年

鄭延元

中國大連市にて生れ（中學卒迄）
上海、台湾について、割合いよく知っている。
國民
生活様式の改進について、
注意したいと思っています

（□民生活様式の改革（可能なる）
□民社會に於ける
住宅問題、社會生活形態の
研究
（家庭生活に関する）

家族、親族、葬儀、行事的
地域関係はいかに
（才）に元なる住宅問題（生活組織）は
如何）

二年

北田修一

仙台市に生れ育つ。

日本経済の基盤となっている

中小企業における社会的

問題、特に経営層を中心として、

中小企業における情義的協力の為の組織 — informal organization

一年

渋谷明三

島根県益田市（出生より二十才迄）

理論面では社会体制論に関する

T.パーソンズの行為理論の批判的研究

（行為理論の社会心理学的抽象的性格に対し

具体的行為の基準として労働を考えたい）

事実研究として農村問題を研究を行なう

ようと思っています。具体的課題は未定です。

郊外における都市化の研究

都市化の一つの場合

一年　上埜道子

東京生まれ
成育地　東京、福井　金沢

1. 大衆化した現代社会の中の家庭生活とマス・コミュニケーションとの関連から研究したい。
2. 広くいえば同じ大衆社会の解明に属する問題であるが、都市化の面から捉えてみたい。

① 未・コミュニティ家族における共同の場と分裂の場としてのマス・コミュニケーション

② 都市における集団の形成

③ 住居の社会学的研究

社会の場としての分離の場としてのマス・コミュニケーション

都市における居住形式の形成（家族社会）

都市における同居関係の形成（都市、農村における）

都市における準世帯の形成（家族、職業、地域）

「小石川の印刷業を職業とする同族の同職業を職業とする」を事例として都市に見出し形成過程を追求する。

一年　藤井寿夫

東京に生まれ
成育地　東京小石川、滋賀県、千葉県市川市

産業社会学、とくに狭義の産業、
人間関係論、モラール、カウンセリング等をテーマとして勉強したい。

機関はいかに人に影響するか
外部の社会に絶縁した部分
外部の社会に接する部分
外部の社会に接し交流の場になる部分

一年　朝川仁

一、秋田県本荘市石脇番地に出生、当本荘市に二十二才まで居住しました。その間小学、[illegible]中学（旧制）、高等学校の学業を修め、高校卒業後、本荘市より約三十粁離れている上浜村立上浜小学、中学兼務の教の助教諭として三年八ケ月勤務、東洋大学文学部社会学科一年に入学するため同職を依願退職いたしました。

以上のことから居住期間の一番長い本荘市、次に本荘市近郊の農村、最後に短期間でしたが居住したことのある上浜村等の大まかな事情は自分なりにわかるつもりです。

一、これまで研究したテーマ

学部卒業論文

文化変容の実証的研究

―主に秋田県西目村海士録部落の季節労働者が、母村に及ぼせる影響の影響について―

出稼漁業者が母村の文化、社会構造に如何なる影響を及ぼしているかということが主眼。

一、これからの研究の関心

文化の接觸によって生ずる同化と変容の問題を主眼として、これを移民に結びつけて考えてみたいと思います。

社会学部助手　渡辺博史

昭和五年、秋田県本荘市（旧、由利郡本荘町）石脇に生まれた。

本荘市の小学校、旧制中学校（五年制）を卒業、のち家業（豆腐製造業）に従事する。その一年後（昭和二十五年）県内の由利郡院内小学校へ助教諭として奉職。昭和二十七年、東洋大学文学部社会学科へ入学。理由は、子供の教育から、関心が次第にそれらを支えている社会構造の性格に移行していったことによる。

入学時には、農村社会の性格に関心をもっていたが、二学年の時、全国大学生懸賞論文「日本の新らしい国際的地位」選三年に「アジアの将来」に各々応募、入選して以来、民族の社会学的研究に非常に深い関心をもつようになった。卒業論文には「民族社会学に関する理論的一考察」を扱った。ただし、内容は非常に抽象的で、後になって失敗したと痛感した。その後、極力実証的に物事をみつめていけるように注意しながら研究を続けた。研究者になりたい夢は、大学二年生の時からの夢だったので、卒業後大学院に入学した（民族社会学コース）。三年間かかって卒業したが、その間の関心は「少数民族の研究」とくに、パキスタンのカシミール問題に限られていたが、先年イスラエルに研究に行く機会に恵まれ、修論は「民族統合に関する社会学的研究」―とくにイスラエルにおけるユダヤ人移民についての統合と同化について―をまとめて提出した。鈴木先生の国際社会の研究には大きな関心をいだいており、指導していただきたいと思っている。

桝

百子

一、東京都千代田区神田にて出生、
小学校高学年次に戦災により茨城県の純農村に疎開、高校後半は上京して以後立川市に在住、

都市化に伴う看護婦のパーソナリティの解体過程
特に住み込み店員について

家族の近代化に伴う病理現象

都市における核家族形式の形成

桝